

はじめに

21世紀に入り、都市の環境制御を巡る動きに大きな変化が見られ始めている。特にリオデジャネイロ会議以降のサステイナブル・ディベロップメントの実践的取り組みは世界的な規模で進展しているようであり、グローバルな視点での取り組みが必須になっている。

その一環として都市の環境管理においてもハードの取り組みのみならず、ソフトの取り組みに多様な展開が見られる。たとえば都市計画という具体のプログラムにおけるビジョンの開発においても日本都市計画学会にビジョン検討委員会（委員長・慶應義塾大学 日端康雄教授）が設けられ、2001年に開催された同学会設立50周年の記念事業の一環として検討結果を“二一世紀都市計画ビジョン”として公表した。筆者はそのメンバーの一人として研究・討議に参画し、環境管理の側面からビジョン提言に加わった。

第一住宅建設協会による本助成研究の実施に当たっては、このような状況の中で、主として都市計画における新しい視点の開発という観点から、同研究の議論と内容的な連携を深め、筆者の領域において担当した環境都市計画の実践的展開手法の検討内容を通じての方法論をさらに発展させて検証することとした。

本報告書は以上述べたような関連において実施された研究の成果をとりまとめたものであり、内容の一部については筆者が日本都市計画学会誌においてすでに発表した稿、さらに同学会が編集している都市計画マニュアルに筆者が担当した稿を一部改変して使用している。何れも日本都市計画学会の許可を得ているものである。ここに関係者に御礼を申し述べたい。

なお、助成申請時に共同研究者として予定されていた2名の研究者は1名は長期海外留学、他の1名は外国人研究者の身分変更により、何れも実施に携わることが出来なかった。その分研究室のメンバーにお世話をかけることになったのでここに紹介し、労をねぎらいたい。